



URL <http://www.pippo.co.jp>
Email pippo@diana.dti.ne.jp

ピッポ新聞

2003

4

No.174

子どもの本専門店

ピッポ

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

ただいま「古書店歴一年半」

草薙を朝一番の列車に乗って、8時4分に横浜駅に着くと、Mさんは約束通りに待っていてくれました。Mさんもインターネットショップの古書店をやっているのです。Mさんとは「紫式部」(古書の検索エンジンスーパー源氏を運営している会社)の集まりで、たまたま同じ高校の先輩であることが分かり、親しく口を利くようになりました。某放送局を定年退職したMさんも、やはり一年半前に、趣味で集めていた軍事関係の本専門のネット古書店を開いたのです。

横浜駅に近い、高層マンションの最上階の部屋の自分の書齋にパソコンと、集めた本を置いて古書店を営業しています。同じマンションの住人たちは、Mさんがネット書店をやっていることを誰も知らないのだということです。

今日はこれから、Mさんの案内でブックオフ巡りをやるのです。神奈川県とりわけ国道16号線沿いにはブックオフが多いのだそうです。

「何故ブックオフへ？」などと思う方がいらつしやるかもしれませんが、実は、古書の仕入のためなのです。いまや、古書店の重要な仕入先の一つが、ブックオフに代表される新古書店なのです。

ただ、ぼくの専門の子どもの本のジャンルに限っていうと、ブックオフといえども、余りたくさんは置いてありません。いわんや、昔からの古

書店では子どもの本の古書などは無いに等しい存在なのです。(まあ、だからこそ、ぼくは子どもの本専門のネット古書店を始めたわけですがね)

ところで、ブックオフに置いてある子どもの本の98%は、ピッポ古書クラブとしてはいらぬのです。残りの2%の中から、選んで買うというのがだいたいパターンです。(ちなみに、新刊書の子どもの本でも、一般書店の児童書の売り場の70パーセントの本は、子どもの本専門店ピッポとしては、必要のない本ですけどね)ですから、一店で買える本の冊数は良くして1〜2冊が普通ですし、0冊ということも多いのです。ごくまれに、一店で10冊も買うことができただけです。

このときは、Mさんの案内で午後4時半まで8軒のブックオフをまわったのですが、買ったのは21冊だけでした。これでは静岡からの交通費も出ないので、このときは、Mさんが「ビールでも飲もうよ」と、誘ってくれたのですが、決意も固くお断りして、東京まで足を伸ばし、さらに数軒のブックオフを歩いたのです。

しかし、数冊を追加できただけで、敗退して帰って来た次第です。「あーあ、これならば、Mさんとビールを飲んだ方がどれほど有意義だったか」と、後悔したことは言うまでもありません。

Mさんは「今回は別コースのブックオフツアーを組むから、またおいで!」と言ってくれました。なので、近々連絡をしてみようと考えています。今度は「ビール」のお誘いは絶対断らないようにしよう。

なぜ、いきなりブックオフの話からはじめたのかというところ、この3月でインターネットショップ「ピポ古書クラブ」を始めて、1年半が経ちました。これを機会に古書店の事を少し書いてみようと思ったのです。そこで、今一番苦労している古書の仕入ることから始めたわけです。

さて、ぼくはどんな方法で古書を仕入れているかと言えば、冒頭のブックオフ以外にも色々あります。

普通の古書店からも買います。古本屋さん、定期的に自分たちが持ちよった本を売り買いうるということなんです。これを市と呼ぶのだそうです。これに参加できるのは、古書組合に加入するのが条件だそうで、ぼくは新刊書の書店組合には入っていませんが、古書組合には加入していませんから、そこに参加はできません。加入したところで子どもの本は余り出てこないということなので、高い組合費を払ってまで加入する意味はなさそうです。

ですから、ぼくは古本屋からは、その店が値段を付けた(定価)? 自分のもうけを載せた)本を買うのですが、この場合二つの条件の内、どちらか一つが満たされた場合に限り買うことにしています。

一つは、例えばその本が10000円と付けてあるが、自分だったら20000円以上で売る自信がある場合にはそれを買います。

もう一つは、その本を自分がどうしても欲しい(読みたい)という時には、高かろうが安かろうが買います。買うと言うよりは、思わず買ってしまふのですね。

つぎに、古本屋の仕入先は読者から直接買うというものです。古本屋さんの店先には必ず「高価買い入れ」などという看板があります。あれですね。しかし、当店は、リアル書店の方は、新刊の子ども本専門店ですから、「高価買い入れ」などという看板を上げるわけにはいきません。

そこで、親しいお客さんに、不要な本を売ってくださいと声を掛ける事もあるのですが、なかなか、どうして売ってくれるお客さんはほとんどおりません。

考えてみれば当たり前のことなのです。子ども本屋のオヤジと親しくなるお客さんは、大概は子ども本が好きなたちなのです。ですから、好きで集めた本を売るなどという人がいるわけがないのです。

それに、そのお客さんたちが欲しい本と、ぼくが売って欲しい本は重なっている事が多いのです。

ところで、だれか引越など子ども本の処分に困っている方いませんか?是非連絡を!

さて、ぼくはインターネット上で古書を買っているのですが、逆に購入もします。最初の頃はヤフーオークションでよく買いました。ところがある時気付いたのです。

たとえば、1000円で買った本があるとしても、この仕入れ値段は1000円ではないのです。

本の代金の他に、まず送料がかかるのです。それに振り込み料です。

具体的には、本が1000円+340円(冊子小包代金)+130円(振り込み料・

ばるるの場合) 570円が仕入れ値段となるわけです。

これが1500円で売れる本ならば良いのですが、600円か700円でしか売れない本であるならば、仕入れてもしょうがないのです。このことに気付いてからは、ヤフーから買うことは、ずっと減りました。

で、仕入に思い悩んでいたある時、突然「これだ!」とひらめいたことがあるのです。が、これから先は、誌面の都合上次回にまわします。

復刊!

『グレー・ラビットとヘアとスキルスケートに行く』(アリスン・アトリー・文 マーガレット・テンペスト・絵 神宮輝夫・訳 1470円 童話館出版)

これは以前評論社から「グレーラビット・スケートへゆく」という題で出版されたものを、



童話館が、原書(1934年)の初版に則して、挿し絵を網羅し、訳を見直して復刊し

たそうです。この絵本のおもしろさは、主

人公のグレー・ラビットをはじめゆめ、小さな動物たちの個性(性格)が良く描かれているうえに、具体的な事象にそって物語が進んでいくところが子どもに分かりやすく、共感を得るのである。今後、グレー・ラビットシリーズとして、復刊や新刊が童話館から予定されている。

アトリーの他の本

なお現在、岩波書店からも、グレーラビットの最初(1929年(32年)の4話



が収録されている大判の絵本が出ている。こちらは、石井桃子さんと

中川李枝子さんの訳。絵は同じマーガレット・テンペスト。価額は3045円。これまでは値段が少し高いと思っていたが、復刊されたこの絵本1話で、



で3045円は割安である。さらに、安い本をお求めならば、挿し絵が少なくカラーではないが、そっくり同

じ4話が収録されている岩波少年文庫版の「グレーラビットのおはなし」だと672

円。同じ岩波少年文庫には『西風のくれた鍵』(岩波少年文庫 672円)もある。アリソン・アトリーは、幼年童話の名手でこの他にも、幼年童話が多く翻訳されている。

『チム・ラビットのぼうけん』『チム・ラビットのおともだち』(石井桃子・訳



中川宗弥・絵) 『サム・ピックだいかつやく』『サム・ピックがおそうどう』(神宮輝夫・訳

多田ヒロシ・絵 各1575円 童心社)などは、小学校低・中学年にお薦めしたい童話集である。

福音館書店からも『むぎばたけ』(矢川澄子・訳 片山健・絵1470円)、『くつなおしの店』(こみねゆら・絵 松野正子・訳 1260円)、『ラベンダーのくつ』(大島英太郎・絵 松野正子・訳 1260円)が出版されている。



『時の旅人』(小野章・訳 1680円 評論社)ある。

岩波少年文庫からも『時の旅人』(松野正子・訳 882円)はでている。

ねーこの本読んだ?

『おっと合点承知之助 声にだしことばえほん』(斎藤孝・文 つちだのぶこ・絵 1260円 ほんぶ出版)



子どもは調子の良い言葉、言い回しが面白い言葉などを耳にすると、すぐ真似します。それを意図的に狙ったのがCMですが、昔からの言い回しにも面白いものが、たくさんあります。この本で取り上げられている「付け足し言葉」もその一つです。「恐れ入谷の鬼子母神」

「驚き桃の木山椒の木」など、言葉が勢いあまって飛び出した感じがよくわかりますね。これを書いたのは先頃「声に出して読みたい日本語」というベストセラーを出した斎藤孝さん。

『おともだち』(片山令子・文 片山健・絵 1365円 ビリケン出版)



物事をすべてマイナス思考で考えたり見たりするふくろうと、逆に、プラス思考でとらえるのうさぎが出会います。そして、

いつの間にかフクロウはのうさぎの考え方に影響されていくのですが、その二人のやりとりがとてもユーモラスで、つつい、読んでいるこちらものうさぎのものの感じ方がうれしくなってきました。同じシリーズに『いえ』も出ています。

福音館の品切れ情報

1999 年復刊された左記の本が、近く品切れ (一部既に在庫切れ) になるそうです。

少数、再度取り寄せましたから、この機会に、ご入用の方はお申し出下さい。これらの本は、品切れになれば、暫くは復刊されないと思われます。

書名	作者	定価	書名	作者	定価
ベンジーのふねのたび	グレアム・作 わたなべしげお・訳	1155 円	ぬまばばさまのせけづくり	オルセン・作 きむらゆりこ・訳	945 円
はしれちいさいきかんしゃ	オルセン・作	945 円	あめのひ	シュルピッツ・作 矢川澄子・訳	1260 円
オーラのたび	ドーレア・夫妻・作 吉田新一・訳	1365 円	ながいかみのラプンツェル	グリム童話 ホ フマン・絵 せ たていじ・訳	1365 円
しあわせなふくろう	オランダ 民話 ビヤッチ・絵 大塚勇三・訳	1365 円	おかしのくに	マブリナ・作 宮川やすえ・訳	1260 円
しあわせハンス	グリム童話 ホ フマン・絵 せ たていじ・訳	1260 円	マルチンとナイフ	ペチシカ・文 スマートチコバー・ 絵 内田りさこ・ 訳	840 円
スモールさんのうじょう	レンスキー・作 わたなべしげお・訳	840 円	カウボーイのスモールさん	レンスキー・作 わたなべしげお・ 訳	840 円
ちいさいじどうしゃ	レンスキー・作 わたなべしげお・ 訳	840 円	ちいさいひこき	レンスキー・作 わたなべしげお・ 訳	840 円
ちいさいヨット	レンスキー・作 わたなべしげお・ 訳	840 円	かめさんのさんぽ	中谷千代子・作	1365 円
いしになったかりゅうど	モンゴル 民話 大塚 勇三・訳 赤羽末吉・絵	1365 円	あかりの花	中国 民話 君島 久子・再話 赤 羽末吉・絵	1260 円
けっこんしたがないリスのゲルランゲ	マゾン・文 堀 内誠一・絵 山 口智子・訳	1575 円	ガブリちゃん	なかがわりえこ・ 文 なかがわそ うや・絵	1680 円

編集後記

今月の「ばあやのおはなしかご」はお休みします。次回は5月24日(土)に開催予定です。
今年の連休はピッツポの営業は4月29日～5月1日はお休み。他は通常営業です。

テレビニュースでアメリカのイラク攻撃の報道を見ていたとき、「アメリカ空軍が、フセインが居ると思われるレストランを爆撃しました・・・」というアナウンサーの声に、ぼくの脳が突然反応した。「うーん、待てよ！」これって言い換えれば「ブツシュはフセインを殺したために、自分の兵隊に命令して、戦闘機から無差別にミサイルを撃ち込みました」続けてアナウンサーは「これによって十数名が死亡しましたが、その中にフセイン大統領がいるかどうか確認されていません」これを言い換えると、「ブツシュはレストランを破壊して、まわりの関係にのないう十数名を殺したが、フセインを上手に殺せたかどうかはわかっていません」・・・。
慣れということ、なんと恐ろしいことなのだろうか。イラクの戦争報道を、いつの間にか当然のように聞き流した自分を強く反省した。